

美原記念病院ブレインバンクからの年次報告(2014年度)

Annual reports from Mihara Memorial Hospital Brain Bank (FY 2014)

田野 光敏¹, 高尾 昌樹^{1,3}, 青柳 真一¹, 渡邊 明日香¹, 飯島 仁美¹, 増茂 愛海¹,
松村 清可¹, 谷津 隆之¹, 諏訪部 桂¹, 木村 浩晃¹, 高橋 陽子¹, 相澤 勝健¹,
村山 繁雄⁴, 美原 盤¹, 美原 恵里², 美原 樹¹

1. 公益財団法人 脳血管研究所 美原記念病院
2. 公益財団法人 脳血管研究所 介護老人保健施設アルボース
3. 埼玉医科大学 国際医療センター 脳卒中内科・神経内科
4. 東京都健康長寿医療センター 高齢者ブレインバンク

【目的】

日本神経科学ブレインバンクネットワークを構成する美原記念病院ブレインバンクにおける2014年度までの現状を報告する。

【方法】

当施設は2007年からブレインバンクを整備し、日本神経科学ブレインバンクネットワーク1施設として症例を蓄積してきた。剖検体制と組織診断を確立、免疫染色は自動免疫染色装置で施行。死亡後は剖検前に頭部MRIを施行し、必要に応じて全身のCTも行っている。右脳と脊髄の一部は-80°Cで保存し分子生物学的解析のため保存。他施設からの剖検依頼も受け入れる体制とした。

【結果】

現在凍結試料を有する症例は186例(2015年3月末)。特にプリオン病は、凍結試料が38例あり、臨床診断、入院受け入れ、剖検、組織診断まで対応をしている。プリオン病剖検が困難な施設、剖検施設がない療養型病院、在宅死亡例などの剖検も、当院で搬送を行い施行。臨床的にプリオン病も念頭におかれ、剖検ができないケースの受け入れ剖検や、他施設で剖検した脳の組織診断も継続している。次に多いのは筋萎縮性側索硬化症(ALS)の32例で、脊髄を多く凍結保存していることから、凍結試料の希望研究機関が多い。続いて認知症と脳血管障害が同数の20例、パーキンソン病10例、その他の神経変性疾患18例、その他の症例が32例であった。これらの、凍結試料を1施設で保存することは、事故などの際に試料を失う可能性があり、ネットワーク施設間での移動・保管できるように準備中である。

【考察】

施設により蓄積される症例の傾向が異なるため、ネットワーク全体で試料を研究者に供与するシステムは重要である。今後1施設で試料を保存することは、様々な面でリスクがあり、ネットワーク内での移動を準備中である。プリオン病に関しては剖検依頼が徐々に増加しており、プリオン病の剖検を希望しながらも、体制的に施行できない場合が多いためと考えられる。